



元気な声があふれる児童クラブ



藤岡 緑 議員

学童保育の充実化に向けての取組みは

支援員との意見、情報交換で子どもへの配慮を

問

今回の北伊予小学校の放課後児童クラブの新設に当たり、実際の図面作成などのプロセスに現場の先生や子供たちの声は届いているのか。

(子ども)の発達段階の差異や障がいなど多様性に対応しているのか)

福祉課長

今年12月に毎日子どもたちと接している支援員の皆さんから要望を聞き、これを設計に反映している。

を考慮した仕様になっている。

また多目的トイレを設置し障がいのある子どもたちにも配慮した設計になっている。

事務室にカウンターを設けたり、お迎え対応のためのインターホンの設置、外のプール用の蛇口を追加したり、使い勝手

今後支援員と意見、情報交換しながら新しい施設を有効に使い、子どもたちが過ごしやすい空間、環境づくりに努める。

問

町民の健康増進に各種健診の受診率アップの策は

健康事業は特定健診プラスがん検診で行う

保健福祉部長

特定健診受診率50%を目指して最近5か年は33%前後。

住民の健康維持や予防的見地からも各種健診の受診率向上の対策が必要では。

計画では平成29年度特定健診実施目標60%が、本年度実質受診率は33.4%と厳しい状況だ。がん検診も部位により開きがある。この二つを総合して、若い世代からの

受診を習慣づけるため、2年前から実施しているレディース健診では女性スタッフが対応し託児付きで行う。受診勧奨チラシの配布や伊予医師会の協力、窓口にはパンフを置く。